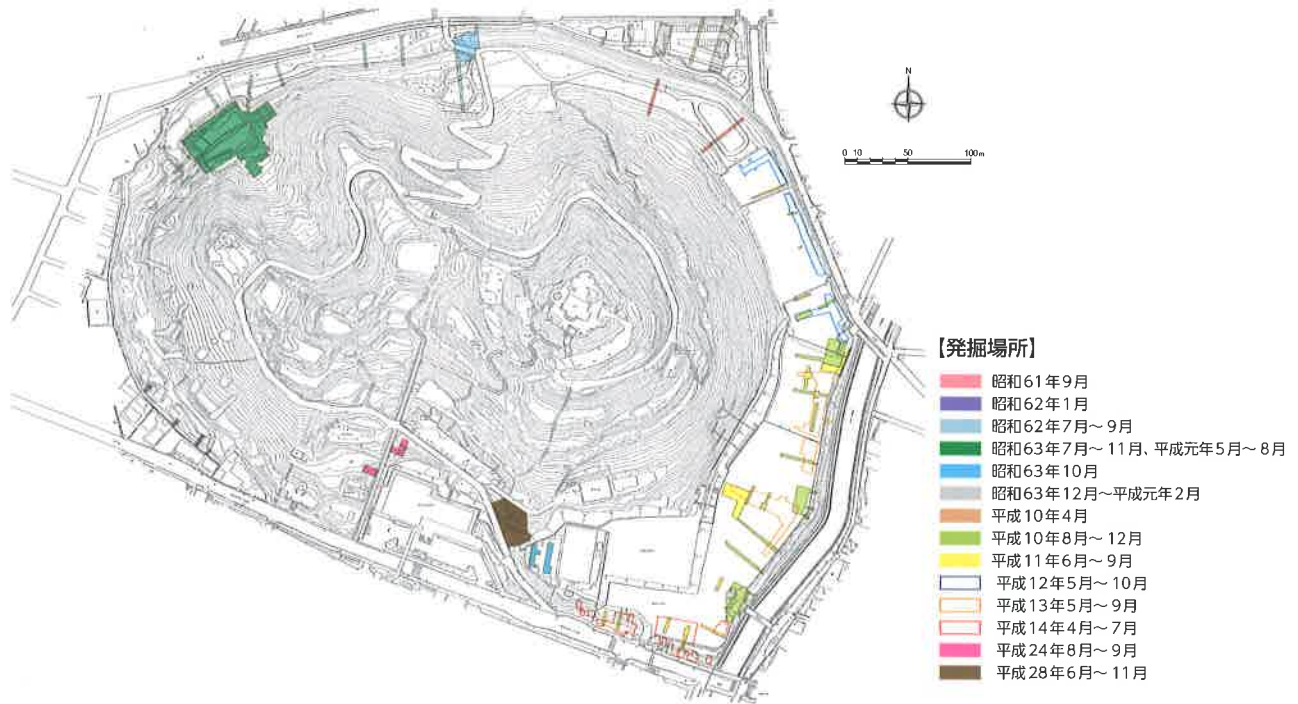


◆発掘調査場所と調査概要（主郭地区を除く）



調査目的	調査地点（調査期間）	調査面積(m)	調査概要
小牧山緑地整備に伴う発掘調査	帯曲輪(曲輪405) [昭和61年9月]	138	・帯曲輪地区北部でのトレンチ調査。天正期の帯曲輪、土塁の確認。
	大手口西部の防御施設(土塁z) [昭和62年1月]	82	・天正期の堀と土塁を確認。
	搦手口および搦手口西部の防御施設(虎口h、堀Ⅵ) [昭和62年7月～9月]	690	・天正期の虎口h(搦手口)の形状が判明。 ・小牧山山麓の帯曲輪を囲む二重の土塁と堀は、天正期に築かれたことが判明。
	曲輪305(屋敷跡伝承地) [昭和63年7月～11月 平成元年5月～8月]	2,500	・曲輪305(屋敷跡伝承地)の調査では、永禄期、天正期の建物遺構は確認できず、下層から中世の寺院跡とみられる掘立柱建物を検出。 ・曲輪305を囲む土塁は、他地区と異なり永禄期に築かれたものを天正期に改修して高くしたことが判明。
旧小牧中学校用地の整備に伴う発掘調査	土塁u [昭和63年10月]	49	・柔剣道場建設による遺構への影響の調査。 ・天正期の堀から土塁へ続く傾斜面を確認。
小牧山緑地整備に伴う発掘調査	堀および外部施設(堀Ⅵ) [昭和63年12月～平成元年2月]	766	・土塁外側の調査で、天正期の堀幅は約12m、底部は平坦であることを確認。
旧小牧中学校用地の整備に伴う発掘調査	帯曲輪(試掘第1次調査) [平成10年4月]	86	・プール建設による遺構への影響の調査。
	帯曲輪(試掘第2次調査) [平成10年8月～12月]	1,332	・東虎口(虎口f)の形状が判明。
	帯曲輪(試掘第3次調査) [平成11年6月～9月]	667	・北東虎口(虎口g)の形状が判明。 ・土塁の断ち割りを各所で行い、土塁積土の状況を形状が判明。 ・帯曲輪地区東部分を区画する堀が永禄期であることが判明。
	帯曲輪 [平成12年5月～10月]	1,000	・永禄期の帯曲輪地区東部分を区画する堀と井戸を確認。
	帯曲輪 [平成13年5月～9月]	2,030	・永禄期の堀、土坑、天正期の土塁などを確認。
旧本庁舎跡地の整備に伴う発掘調査	帯曲輪 [平成14年4月～7月]	1,055	・永禄期の溝、天正期の堀、土塁、土坑などを確認。
	大手曲輪地区 [平成24年8月～9月]	116	・大手道の本来の幅が5.4mであったことが判明。 ・切岸の構築では、土の工法が用いられていることを確認。
(仮称)史跡センター周辺の整備に伴う発掘調査	大手曲輪地区 [平成28年6月～11月]	225	・曲輪及び斜面(切岸)、土塁等の遺構の残存状況を確認。

※主な成果については、展示室1階東側の常設パネルをご覧ください。